

答辞

厳しい冬の寒さもようやく遠のき、暖かな春の日々の到来が感じられるようになりました。本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、大野学長先生をはじめ、諸先生方、ならびにご来賓の皆様方にご臨席いただきましたことを、卒業生一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、4年前に農工大に入学して以来、多くの人々に支えられ、また多くの人々と共に過ごしてきました。入学後すぐに始まった講義や学生実験に新鮮さを感じつつも、高校までとは違う、専門的で難しい内容に、若干の戸惑いを感じました。そんな中、分からないことについて教え合ったり、調べ合ったり、切磋琢磨できる友人達に出会えたお蔭で、勉学に励むことができました。

また、部活動で、自転車部に属していた私は、仲間と色々な場所へ自転車旅行に行きました。旅行のスケジュールを作ったり部員全員が安全な旅行をすることができるよう心掛けたりすることを通じ、仲間との様々な体験ができたことは、私にとってかけがえのない思い出です。また、この部活動の経験を通じて、団体活動に伴う大きな責任を、仲間とともに学ぶこともできました。

四年生になり、研究室に配属されると、それまでの講義や学生実験とは違って、自分自身で研究のアプローチを考えるという主体性が要求されるところに、不安や難しさを感じました。しかし、一緒に乗り越えてきた同期、親身になってアドバイスをくださった先生、先輩方に支えられるとともに、自分自身でアプローチを考え、新しい発見に向けて挑戦する面白さに後押しされて、研究に取り組むことができました。

このような4年間の中で、多くの人との出会いを通じて、自分とは違う視点があることや、自分の知っている世界がいかに限られたものであったかを痛感することが多々ありました。その中で、幅広い視野を持ち、様々な考えを積極的に理解することの大切さを学びました。

今日の私たちを取り巻く状況は、決して易しいものではありません。しかし、私たちは農工大での講義や専門分野の研究を通して基礎を固め、視野を広げるとともに、自ら学んでいく姿勢を身につけることができました。農工大での経験、そしてこれからの新たな出会いを大切に、それぞれが新たな道を切り拓き、未来の社会を作っていく一員となっていきたいと思います。

最後になりましたが、多くの人々の支えがなければ、今日このように卒業式を迎えることはできなかったと思います。今までご指導してくださいました先生方、学生生活を支えて下さいました職員の方々に厚く御礼申し上げます。また、私を支えてくれた友人、先輩、

答辞

後輩、そして家族に心より感謝申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。東京農工大学の更なる発展ならびに皆様方のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げ、お世話になった皆様に感謝の気持ちを込めて、答辞とさせていただきます。

平成 30 年 3 月 27 日

卒業生代表 工学部 有機材料化学科 4 年

沖田 一步